



「明日はヒ/キになろう！」
努力は無限！
「夢を大切にしよう!!!」



◆◇◆何のために勉強するのかな？◆◇◆

何のために勉強するのか？それは予測困難な時代を生きていくために必要な「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して、行動する」力＝「生きる力」を身につけていくためです。

では、予測困難な時代とはどういうことでしょうか？AI(人工知能)による技術革新によって、「現在の半数近くの仕事が自動化されている可能性が高い」、「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に彼らが小学生の頃には存在しなかった職業に就くだろう」といわれています。近年、急速に進んだグローバル化によって、君たちが大人になる頃には新しい仕事が生み出されていくと言われています。

想像してみてください。どんな仕事が新しく生み出されると思いますか？先生が調べたところ、「海の洗濯ゲーマー」、「南極保護レンジャー」、「VRスクール教師」、「アバター旅行ガイド」、「排水再生家」、「月旅行ガイド」、「スペースデブリそうじ屋」、「発電DJ」などがありました。実際にこれらの仕事生まれるかはわかりません。でも、未来はどんどん変化していき、予測することが難しい時代になっています。このような時代を生きていくみんなには、今起きている変化が何であるかを見つけ、それに適応できるように行動していくことが大事だと思います。

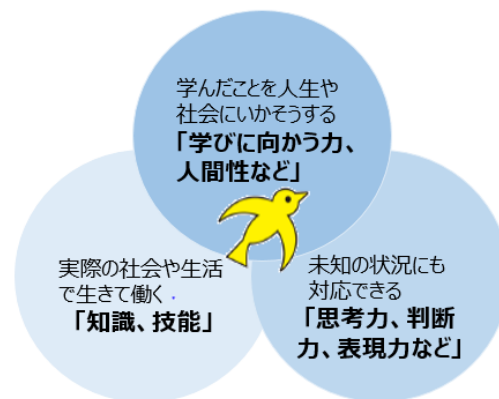
「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して、行動する」力＝「生きる力」を身につける

◆◇◆「生きる力」って何？◆◇◆

「生きる力」は、次の大きく3つの力から成り立っています。

- ①実際の社会や生活で生きて働く「知識、技能」
＝何を理解しているか、何ができるか
- ②未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力など」
＝理解していること・できることをどう使うか
- ③学んだことを人生や社会にいかそうする
「学びに向かう力、人間性など」
＝どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

すべての教科の授業はこの3つの力をつけるために準備されています。



◆◇◆「生きる力」をつけるためにどのように学ぶの？◆◇◆

「生きる力」をつけるために、授業ではつぎの3つの姿勢をこころがけていきましょう。

①見通しをもって、ねばり強く取り組む

- ・授業の最初に示される「ねらい」から、この授業で、何をできるよう(わかるよう)になればいいの確かめよう。
- ・「ねらい」から、どれだけできるよう(わかるよう)になるか、見通し(目標)を立てて、学習に取り組んでいこう。

②自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす

- ・授業の最後にする「ふりかえり」で、見通しに対して、どこまでできる(わかる)ようになったかをふりかえって、次の授業や今後の学習、自分の生活につなげていこう。

*「ふりかえり」のポイント

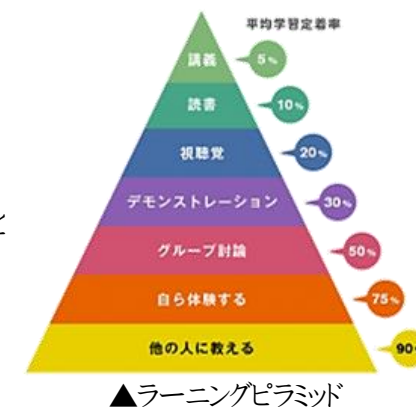
○学習内容 ・何ができた(わかる)ようになったか、新しくわかったこと、できたこと。 ・友達から学んだこと。	○自分の変化 ・自分が成長した、自分の考えが変化したこと。 ・成長できたのはなぜか。 ・達成感があつたか。 (おもしろさ・楽しさ・満足感もと学びたい意欲)
○学習方法 ・発見した解決方法。 ・ねらいに対して、達成するために自分が考えたこと。 ・どのように学んだのか。	○他との関連、発展 ・今後の学習につながる点。 ・日常生活、社会に結びつけられること。 ・さらに学んでみたいこと、新たに見つけた疑問。

③周りの人たちと共に考え、学ぶ

- ・ペアで…
 - ・班で…
 - ・クラスで…
- 自分の考えを話して、人の考えを聞いて、自分の考えを深めていこう。

*「周りの人たちと共に考え、学ぶ」ための約束

- ①わからないことがあつたときは、周りの人に「わからへんから教えて」と言えること。
- ②班やグループの中で、一人ぼっちをつくらないこと



※うらにつづく

◆◇◆「生きる力」がどのくらいついたかを知るには？◆◇◆

○「生きる力」を構成する3つの力は、すべての教科で次の3つの観点でどれだけ力がついたか、それぞれ評価されます。

☐ 実際の社会や生活で生きて働く「知識、技能」



■ 知識・技能(観点1)

・学習したことを、どれだけ理解できたか、どれだけのできるようになったか

☐ 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力など」



■ 思考・判断・表現(観点2)

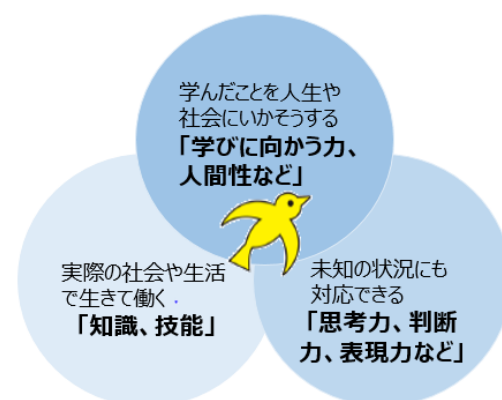
・学習して得た知識や技能を使って課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力がついているかどうか

☐ 学んだことを人生や社会にいかそうする「学びに向かう力」※



■ 主体的に学習に取り組む態度(観点3)

・ねばり強く学習に向かっているか
・自ら学習を調整しようとできているか



※「人間性」については教科で評価するのはなじまない
とされていて、教科では「学びに向かう力」がどれ
だけついたかを評価します。

○3つの観点はそれぞれ、「A・B・C」の3段階で評価します

「A」…十分満足できる。

「B」…おおむね満足できる

「C」…努力を要する

○各教科で、この3つの観点について、学期ごとにどれだけ力がついたか、評価します。

(例) Aさんの国語の学習状況

観点	1学期	2学期	3学期	年間	評価
知識・技能	B	A	A		
思考・判断・表現	C	B	B		
主体的に学習に取り組む態度	B	B	B		

○各教科で、この3つの観点について1学期・2学期・3学期の評価をもとに、それぞれ1年間でどれだけ力がついたか、評価します。

(例) Aさんの国語の学習状況

観点	1学期	2学期	3学期	年間	評価
知識・技能	B	A	A	→ A	
思考・判断・表現	C	B	B	→ B	
主体的に学習に取り組む態度	B	B	B	→ B	

○各教科で、3つの観定の1年間の評価をもとに、1年間の学習の成果を、「5・4・3・2・1」の5段階の
評定で示します。

例) Aさんの国語の学習状況

観点	1学期	2学期	3学期	年間	評価
知識・技能	B	A	A	A	→ 4
思考・判断・表現	C	B	B	B	
主体的に学習に取り組む態度	B	B	B	B	